

感染第9波 高齢者施設での感染防止・医療支援を万全に

課長 今後とも施設への働きかけを続けるとともに、「施設との連携ができない」と回答した医療機関のリストを作成したので、希望する施設に情報を提供していきたい。

入江 まだ医療支援の体制がとれていない残りの施設に対し、県はどのように対応していくのか。

課長 今年5/8時点では、ショートステイを含めた約3000施設を調査したところ、77.5%で確保できていた。昨年同時期の56.3%（調査対象約2200入所施設）よりも増えた。

入江 コロナ患者への往診や電話による相談、入院調整に対応できる医療機関を事前に確保している施設はどれくらいか。

入江 第9波に入ったとも言われ始めているので、しっかりと状況を見て必要な対策を取っていただきたい。

高齢者福祉課長 約1400の高齢者入所施設を対象に約9億円（国費・県費各1／2）を見込んでいるが、現在のところ9月末で終了する予定。今後の検査実施の基準や考え方はどうか？

入江 7月から9月末まで施設従業員等へのPCR検査を週2回実施することだが、対象数や費用は？

高齢者リスクのある高齢者が暮らす施設においては、感染防止策の徹底、医療機関との連携強化や療養体制を確保していくなければなりません。健康新規委員会で県の対応を確認しました。



7/5 健康福祉新規委員会

千葉で働く人を育てる 働きやすい環境にする

千葉県の農業を元気に
新規就農者を育て、女性の活躍を応援

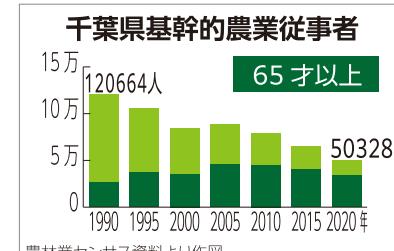
政策提案で前進！

入江 千葉県でも農業従事者が減り続け、7割弱が65歳以上となっている。本県農業の魅力を高め、新規就農者を増やし、定着させる必要があるがどうか？

知事 今年度は新規就農者の定着促進に向け、市町村や農協などと連携して就農の準備段階から経営発展まで一貫して支援する体制づくりに取組んでいく。

入江 女性の農業経営の関与が収益性の向上につながるという調査結果もある。農業における女性の活躍をどのように進めているのか。

副知事 県では、個々の農業経営に女性が主体的に参画できるよう生産技術や経営管理のスキルアップを支援し、地域や産地のリーダーの育成に取り組んでいる。今後も活躍できる環境づくりを進めていく。

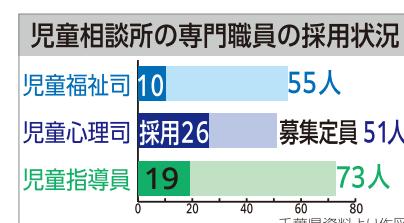


深刻な職員不足
新たな先輩紹介制度、試験方法の見直し着手へ

政策提案で前進！

入江 県職員の確保については、10年以上前から受験倍率が著しく低下し、採用予定数を下回る状況が続いている。会派では、競争試験・採用選考の見直し、職員の待遇改善や勤務環境の改善等を継続的に求めたが、令和4年度も児童相談所や保健関係の専門職に大幅な欠員が生じている。今後、どのように実効的な対策を講じるのか。

人事委員会委員長 今後は新たに就職希望者が知りたい内容を職員から直接聞くことができる仕組（OBOG紹介制度）を速やかに整備し、受験しやすい試験方法への見直しにスピード感を持って取り組み、有為な人材の確保に努めていく。



入江あき子事務所

〒285-0846 佐倉市上志津 1621-8 (2階)
電話 / 043-420-8758
fax / 043-420-8759
mail/akiko.machi3@gmail.com

いのちと暮らし、守り抜く

詳しくはこちらをご覧ください

入江あき子サイト <https://irieakiko.jp/>



プロフィール

1965年
宮城県仙台市生まれ
1988年
国際基督教大学(ICU)
教養学部社会科学科卒業
2003年4月～
佐倉市議会議員
2011年4月～
千葉県議会議員

現在

千葉県議会議員 4期目
健康福祉新規委員会委員
会派「立憲民主党千葉県議会議員会」会長
立憲民主党千葉県連 副幹事長・組織委員長
連合千葉議員団会議所属
千葉県地方自治研究センター所属
千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属
千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属
千葉県議会不登校児童生徒の教育機会確保・支援推進議員連盟
全国災害ボランティア議員連盟所属

印旛沼流域治水対策
出水期に備える
激甚化・頻発化する豪雨災害に備え、
浸水被害を軽減する対策を着実に進める
よう求めました。



5/15 県立こども病院

県立病院

若手医師の定着に向けて 初の実態調査へ

県立病院の研修医制度では、臨床研修（医学部卒業後2年間 / 定員12名）への応募は例年人気でフルマッチですが、その後の専攻医（レジデント）に進むのは、わずか1割程度。また、専攻医から常勤医への定着率も極めて低く、その後の進路もつかんでいません。

県立病院は慢性的な常勤医不足に加え、来年度から始まる医師の時間外労働規制により、さらに厳しさを増します。これまででも若手医師の確保・定着策を求めてきたところですが、今議会でようやく県は重い腰を上げ、「県立病院に研修医が定着しにくい原因を調べるために、他の病院の状況調査や研修医の進路の考え方を聞くなど実態把握を行いたい」と答弁しました。今後の取り組みに期待します。

がん対策

職域検診の実施率を上げ さらなる患者の相談支援へ

昨年度、県が初めて行った「職域がん検診実施状況調査」により、県内民間事業所の約6割ががん検診未実施であることが明らかになりました。法的義務付けがないことが原因ですが、県民の約65%が職域の健康保険に加入していることから、県として企業等とのさらなる連携で実施率を上げるべきと要請しました。

また、かねてから求めているがん患者への相談支援の充実については

① 今年度から病院外でアピアランスケア（がん治療による外見の変化への対応）の相談会を開く

② がんを経験した「ピア・ソポーター」の活躍の場を病院外にも広げると前向きな答弁を引き出すことができました。

活動報告



- ◆ 沼の堤防かさ上げ
- ◆ 西沼（佐倉市土浮千拓）
- ◆ 北沼（成田市松崎千拓）
- ◆ 鹿島川の護岸・掘削工事
- ◆ 令和元年10月の記録的豪雨（過去最高水位を更新）後、印旛沼の水位を事前に下げる「予備排水」の運用基準を見直し、以降12回実施。